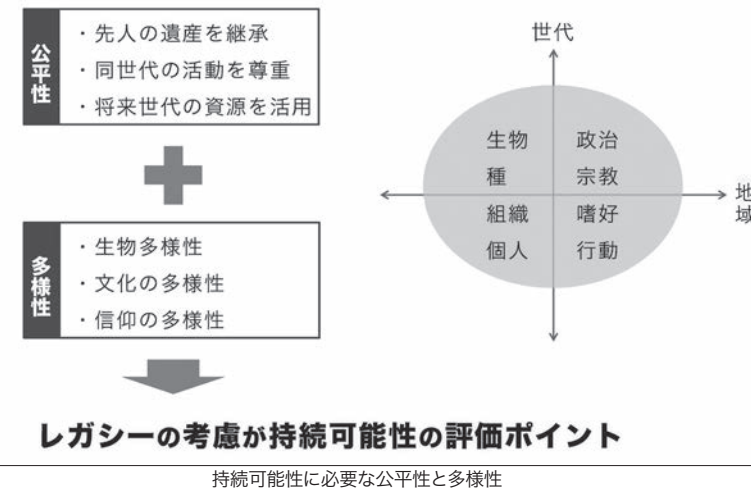


持続可能性に必要な公平性と多様性



分析

サステナビリティ 持続可能性から

けでなく、将来の価値観を革新的なインパクトを持って現在に持ち込むこともできます。

日々の取り組みの延長としてさまざまな取組みを行なうことも大事ですが、これは私たちの目線では物事を測れません。持続可能性を実践するにはこの考えを併せもつと効果的です。

従来、何かの制約に取り組むというものは何かを犠牲にすることを意味していました。

たとえば環境配慮型の製品・サービスの提供はコストの増加やサービスの低下を招くものとされてきました。しかし、組織の価値が向上すると同時に社会の価値を新たに創造していくことができれば、社会の潮流として善意のスパイラルが生まれます。既存の価値観で作られた社会的課題を将来の価値観から考える

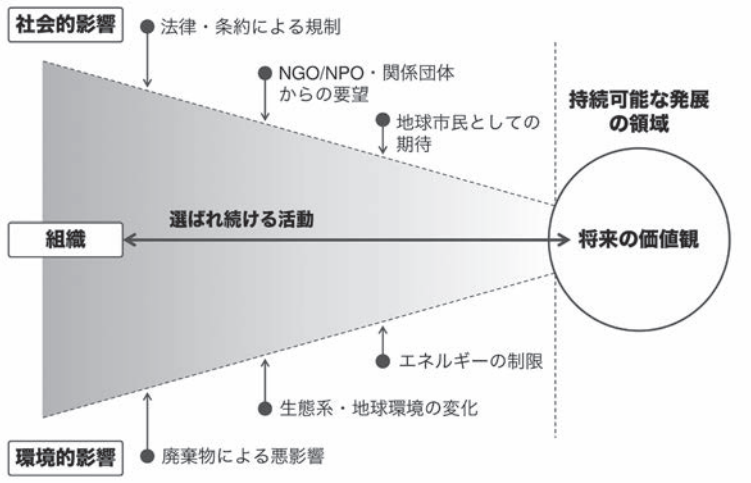
2 イベントだからできること

(社)日本イベント産業振興協会は以前よりイベントは社会の縮図であり、社会実験の場であると説明してきました。イベントが社会の縮図であるならば、そこには社会的課題も現れます。ここで現れる課題を解決、または解決に向けたきつかけづくりをしていくことで社会の抱える課題解決に繋がっていくのはイベントな

トを行うことが必要です。イベントをきっかけに開催地、開催テーマに対する意識が集まり、レガシーとして参加者の中に環境への意識、行動が残り続けるきっかけ作りがイベントにできることです。

利益ではなく「利潤追求」としたのはイベントの効果は経済的なことに限らず社会資本全般にまたがっているからです。イベントの実施には資金が必要ですが、それにも限りがあります。たとえばコストマネジメントにより余剰金が生まれれば、その分何か新しい取組みが可能になり、その取組みが別の効果を誘引することで社会的な広がりを持ちます。このように経済的効果はもちろんのこと社会的効果も生み出します。それは単なる数字上で測れるものではありません。社会の何かが潤う事がイベント本来の効果です。

サステナブルマネジメントを取り巻く環境



サステナブルマネジメントを取り巻く環境 参考:『第5の競争軸』ピーター・D・ビーダーセン

◎スポーツイベント

スポーツイベントを例に

特集

展示会の持続可能性

1 持続可能性って何だろう

「持続可能性」がさまざまな場面で使われはじめています。この考えが生まれたのは20世紀型経済成長を支えていた「無限・無料の自然資本」がそうではないということに気づいてしまったからです。

そのため、人間社会を永続的に発展させていくためには、限りある地球資源の有効活用と環境保護に取り組んでいかなければならないという考えが生まれました。この背景を考えれば持続可能性とは社会の持続性に関する概念ですが、一方では持続可能性に取り組み



越川 延明氏

(社)日本イベント産業振興協会 主任研究員 越川 延明氏

組織自体の持続性という考えもありです。持続可能性は立場によりさまざまな受け取り方が可能ですが、シンプルに考えると次のようになります。

◎「人間社会を維持するために地球全体の幸福を追求する概念」

私たちは地球に生まれ育ち、将来の世代のために地球を残さなければなりません。いくら人類がものづくりに優れていたとしても地球をつくることはできませんし、火星の移住もどうやら現実性が薄いです。地球一つの適正規模を考えたい行動が必要で、Homeからenoughへ意識を変え、物質的な満足ではなく精神的な満足を得られる行動を選択していきましょう。

そのためのキーワードは

「公平性」と「多様性」で誰かの満足のために誰かに必要以上の負担がかかっています。持続可能な発展は望めません。地球規模での公平な社会の実現を目指し、地域間の公平性を保つ広い視野が必要です。また、持続可能性本来の意味を考えると、時にはその軸足を私たちが将来世代に移すことも必要です。将来世代へ引き継いでいくものには、現在の私たちの生活の礎をつくり、生活に潤いを与えてくれる歴史、文化などがあります。

人間社会は生物多様性が作りだすバランスの上で成り立っており、多種多様な文化が交流することで発展してきました。人間社会が今まで発展してきたことを引き継ぎ、それを将来世代に無理のないように引き継いでいくためには公平性と多様性を意識しながらさまざまな要因に向き合っていく

社会は総論として持続可能な社会を求めています。選ばれ続けるには組織の継続的な発展と社会の持続可能な発展を同軸で捉えていく必要があります。そのためには「将来のあるべき姿から現在とるべき道を選択する」バックキャストイング思考が役立ちます。この考えを取り入れることで、目の前の課題を解決するだ

昨今の景況の悪化に加え、東日本大震災で大きな打撃を被った日本そして展示会・イベント産業。しかしながら、先の見えない状況を払拭するのだと、懸命に取り組んだ1年だった。

本特集では、今後の展示会・イベント産業の発展を願って「持続可能性」という言葉をキーワードに掲げて、新たな付加価値を生み出すべく必死に活動を進める主催者やサポート企業の姿を追った。各々は安全また環境問題などに取り組んだり、自社や展示会の魅力を高めるべく独自の体質強化策を進めている。展示会・イベント産業の持続可能性を求めて。